

緑園 30 周年にあたって



緑園連合自治会

前会長 八谷 道紀

緑園地区の 30 周年記念にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

30 歳といえば人間の歳で考えると、社会で一人前として評価され、十分に力が発揮できて働きがいのある年代と一般的には言われます。街の場合には 30 年経つと普通は街並みや商店などの店構えも大きく変わりますが、緑園の場合には開発当初から計画的に美しい街づくりを目指されたこともあり、あまり古さを感じずに 30 年経ってしまった感があります。ただ個々の住宅では次世代との同居や、近所に住まうことを目指して、リフォーム、建替えなどが多くなり、やはり 30 年の経過は隠せないものと思わざるを得ません。

次世代が緑園から出て行くことを抑えるためにも、中学校の誘致というのは永年の目標でありましたが、多くの方のご努力により、平成 34 年から義務教育学校として小中一貫校の設置が決まりました。これに関連して統合される東・西小学校ですが、街としての一体感がこれまで以上に出てくるものと予想されます。また西小学校の跡地利用に関しても、街として何が今必要で、どのようにすればこの跡地を活用して、それが実現できるのかを考えることが、火急の課題として連合自治会、RCA、地区社協等の地域コミュニティに与えられております。

また街の活性化、リニューアルに関しては地域デベロッパー、地権者との話し合いによる意志の統一などは欠かせられません。緑園としてはフェリス女子学院の存在は「大学のある街」として非常に誇らしいものですが、駅とキャンパスの間をただ通り抜けるのではなく、途中で道草ができるような施設などがあって、地域との接触の機会が多くなる街づくりを心掛けたいと思います。

RCAが行っている国際交流イベントでは留学生からお国の話を聞くなどの交流があるように、連合自治会としても積極的に交流の機会を作っていきたいと思っております。

緑園のまちづくり 30 周年を祝して



緑園都市コミュニティ協会

理事長 見瀬 賢悟

この度、緑園30周年記念を迎えましたことを、住民の皆様そして地域の商店街や学校等に携わってこられた皆様と共にお祝いできることを大変嬉しく思います。

思えば、RCAは、緑園の街が誕生して以来、住環境を守るガイドライン「緑園のまちづくり」の趣旨に沿って、関係諸団体とも協力し緑豊かな住環境の維持管理に取り組んでまいりました。一方、緑園の街はこの30年の間に既に成熟期を迎え、これからは明るい未来に向かってどのような絵図を描けるかが問われることになるでしょう。

幸い、この街には、長きにわたる経験とそれに伴う知恵を持たれた長老の方々、そして何か他人に秀でた技をお持ちの多くの匠の方々がいらっしゃいます。これらの方々の経験と知恵そして技は、今のネット社会に流布するそれらと比較しても決して勝るとも劣らない、いやむしろそれらを凌駕するものであると、私は考えます。このような街の貴重な資源を、我々後継者は、引き継ぎ、そして、さらに発展させていく努力をする必要があると考えています。

いずれ我々の次の世代の子供たちは、一度はこの緑園を後にするかもしれませんが、しかし、その子らは、緑園に住んでいた時、街の発展のために努力する我々の背中を見て育っています。将来、彼らが緑園に戻って来た時、我々の後を継いで街の活動の中心になることにより、この街緑園の持続的な繁栄が可能になっていくというような好循環の生まれることを、私は強く希望します。

結びに、緑園のまちづくりも30年という節目を迎え、緑豊かで安心して楽しく暮らせる地域環境づくりという今までの目標に加え、これからは持続可能な助け合いと支え合いを通して夢と希望が持てるような元気な街づくりを目指していきたいと考えています。

緑園 30 周年を祝して



横浜市 泉区長 額田 樹子

緑園 30 周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

30年にわたり、緑園のまちづくりを支えてこられた緑園連合自治会や緑園都市コミュニティ協会の歴代会長、役員の皆様をはじめ、緑園地区活性化委員会などの団体の皆様の御努力に深く敬意を表します。また、日頃から泉区政への多大なる御尽力をいただいておりますことに、深く感謝を申し上げます。

昭和 62 年、会員 211 世帯の緑園自治会が発足し、平成 3 年に 7 自治会（現在は 8 自治会）から構成された緑園連合自治会が設立されました。同じく昭和 62 年、住民主体のまちづくり組織である緑園都市コミュニティ協会が設立され、現在、緑園は約 5,800 世帯を抱えるまちとなり、緑園連合自治会と緑園都市コミュニティ協会が連携、協力を図りながら、緑園のまちづくりを推進していただいております。

特に、夏祭りや運動会、「タスカル」をはじめ、「小学生作文コンクール」など、盛んに行われている地域活動は、地域の親睦を深めるうえで大切なツールとなっており、地域全体で交流が図られていることは、大変素晴らしいことと感じています。また、「緑園子ども見守りプロジェクト」では、「花で子どもを見守ろう」を合言葉に、児童が育てた苗木を地域に配布し、登下校時に花へ水やりをすることで、児童への見守り活動をされており、その仕組みづくりの工夫に感服しています。

この30周年を契機に、より一層地域の皆様の絆が深まっていくことを願い、これからも「安全・安心で環境の良いまち」、「スポーツや文化事業を通して元気のあるまち」、「緑豊かで住みよいまち」として発展されることを期待しております。

泉区といたしましても、少子高齢化が進展している今日において、人と人とのつながりのあるまちづくりを進めていくため、区民の皆様との連携・協働を図りながら「住みたい、住み続けたいまち・泉」に向けた取組を推進してまいりますので、引き続き皆様のお力添えをよろしくお願いいたします。

緑園連合自治会・緑園都市コミュニティ協会のますますの御発展と御活躍を心よりご祈念申し上げます。

お祝いのことば



相鉄ホールディングス株式会社

代表取締役社長 林 英一

このたびは緑園の30周年につきまして心よりお慶び申し上げます。

緑園都市はこの30年の間に、横浜を代表する街のみならず、首都圏でも有数の美しい住宅地として成長して参りました。これはひとえに、住民の皆様、緑園連合自治会、活性化委員会、緑園都市コミュニティ協会の皆様が、街の現在・未来を見据え、営々と「暮らしやすい街の実現」に向け、様々な取り組みを積み重ねてこられた賜物であると考えております。

例えば、「緑の園の継承」、「街並みの景観維持向上活動」の一環として行われている、幹線道路沿いの「植栽の美化活動」、「年末一斉清掃」などの実施や、地域と子供が一体となって行われている、緑園東小学校・西小学校と連携した「作文コンクール」や「子ども見守りフラワープロジェクト」など、緑園都市を愛する皆様の数多くの取り組みが、今日の「美しく暮らしやすい街、緑園都市」に結実し、緑園都市が価値の高い街として、外部からも評価され続けているのだと思います。

一方で、ニュータウンとして整備されてきた、いずみ野線沿線の住宅地につきましては、「少子高齢化」という課題も一層顕在化して参りました。例えば緑園都市住宅地でも、街が若かった時代にはそれほど問題とはならなかった、駅までの坂道が次第に課題となってきたことや、児童数の減少による小学校の統廃合も行われるなど、様々な変化が発生していると伺っております。

緑園都市が今後も皆様にとって快適で暮らしやすい街として発展し続けるためには、若い世代が継続的に街に流入し、これまでの地域活動の継続など、街の活力を維持し続けられるような仕組みを継続・拡大していくことが重要と考えます。そのためには若い世代の方々も緑園都市に「住みたい」と思っただけの魅力づけが是非とも必要であります。

相鉄グループといたしましては、こうした課題に対処するため、今後予定している相鉄線とJR線および東急線との相互直通運転の開始による東京都心への交通利便性の大幅な改善と合わせ、沿線各駅前の再開発や車両・駅のデザインの刷新などによる「相鉄線全体のイメージアップ」に努めるなど、グループの総力を挙げて、「魅力ある相鉄線沿線の創造」に取り組んで参りますので、今後もより一層皆さまのご協力、ご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりますが、今後も緑園都市が住民の皆様にとって、より一層充実した生活を送れる地域として発展し続けられることを祈念致しまして、お祝いの言葉とさせていただきます。